

国際原子力機関（IAEA）開催の 保障措置実施支援(MSSP) コーディネータ会合について(2)

IAEAは保障措置を実施するにあたり、先進的な技術の開発等に向け、IAEA自らによる研究開発を行うほか、加盟国からの技術支援も求めています。こうした支援国（MSSP国）からの支援が実効性のある効果的なものとなるよう、IAEAは計画を策定するとしており、そのための情報提供及び議論の場としてMSSPコーディネータ会合が開催されています。

先月号では平成30年（2018年）2月13日から15日にIAEAで開催されました会合の冒頭における事務次長（保障措置担当）（以下「DDG¹-SG」といいます。）及び概念計画部長からの挨拶の概要を通じて、IAEAにおける保障措置関連の技術開発の重要性及びそのための計画策定について紹介しましたが、今月号では2018-2019年の2年間の『D&IS計画²』とその下で管理される24のプロジェクトの概要を紹介します。

核物質管理センター 企画室

磯 章子³、平戸康徳⁴、萩谷 学⁵

3. 2018-2019年D&IS計画下の事業⁶

3.1 IAEA側からの概要説明

DDG-SGと各部長が、次のとおり保障措置局が業務を実施する上での優先順位、挑戦課題及び必

要とされる支援について説明した。

DDG-SG

保障措置局の優先順位は、①保障措置局のゴールに向かう構造的なアプローチ（structured approach）を構築すること、②次の十年に現れる業務の実施方法の変化に対応できるような長期

¹ DDG : Deputy Director-General

² 原題は、『STR-386 Development and Implementation Support Programme for Nuclear Verification 2018-2019』（2018年1月付け）。なお、IAEAは会合において、各国からの代表に対し当該文書を広くレビューしてもらいたいと述べたが、2018年5月1日現在、ウェブサイトには掲載されていない。

³ 核物質管理センター 事業推進部長

⁴ 同 検査監理室長

⁵ 同 東海検査部分析課

⁶ 本誌2018年4月号（Vol.47 No.4）に掲載した「国際原子力機関（IAEA）開催の保障措置実施支援（MSSP）コーディネータ会合について（1）」からの続き番号

目次

●国際原子力機関（IAEA）開催の保障措置実施支援（MSSP） コーディネータ会合について（2）	1
●原子力輸出管理に関する国際的な取組み（1） —ザンガー委員会及び原子力供給国グループの取組み—	7
●NMCCのページ	12
●ウィーン滞在記②	13
●News Memo	15
●動静・編集後記	16

動 静*

2018.4.23 ~ 2020年NPT運用検討会議第2回準備委員
5.4 会 (スイス、ジュネーブ)
2018.6.4 ~ 8 IAEA理事会 (オーストリア、ウィーン)
2018.7.2 ~ 4 CTBT準備委員会第50会期(オーストリア、
ウィーン)
2018.9.10~14 IAEA理事会 (オーストリア、ウィーン)
2018.9.17~21 第62回IAEA総会(オーストリア、ウィーン)

2018.9.24 IAEA理事会 (オーストリア、ウィーン)
2018.11.5 ~ 7 CTBT準備委員会第51会期(オーストリア、
ウィーン)
2018.11.5 ~ 9 IAEA国際保障措置シンポジウム (オース
トリア、ウィーン)
2018.11.19~23 IAEA理事会 (オーストリア、ウィーン)

*ここに掲載している会合等は必ずしも全てが公開参加型とは限らないことをお断りします。また、2か月先までのスケジュールについて網かけ表示しています。



編集後記

当センターの六ヶ所センターには週末を利用してアウトドアライフを謳歌する職員が少なくなく、そんな個人的な楽しみをお互いに披露している様子。その中でもハイキング等に関する話題を興味深く読みました (写真は当センター職員提供)。



八甲田連峰のうち、高田大岳の麓にある田代平湿原 (2枚とも)



大岳からの絶景パノラマ

青森県の山といったら双壁をなすのが、県内最高峰の岩木山 (1,625m) と八甲田連峰です。この八甲田連峰、六ヶ所村からも遠くに眺めることができます。私どもの六ヶ所センターからは残念ながら望めませんが、国道338号線が尾駈沼 (おぶちぬま) の上を走る尾駈橋の上から西を眺めれば夕日の沈むあたりに八甲田連峰の稜線が浮かび上がってきます。六ヶ所センターの職員たちにとって、八甲田連峰は身近な存在になっているようです。

さて、詳しい人にとっては今更ながらの説明になりますが、八甲田山という単独の山はありません。八甲田連峰は北部山系と南部山系の二つに別れている山々の総称です。この八甲田連峰中、最高峰は北部山系の八甲田大岳 (1,584m) です。

八甲田連峰は火山活動によりできた大きな凹地であるカルデラ^注を有する火山群。気象庁のデータによれば少なくとも17以上の成層火山 (一つの火口から繰り返し溶岩や火山灰が噴出して、円錐

形に成長した火山のこと) や溶岩ドームで構成されているといえます。八甲田連峰は過去に2回の巨大噴火を起こしました。南部山系の火山活動は完了したとされますが、溶岩流出はないものの北部山系では今日もなお火山ガスの噴気が認められ、地震活動や山の膨張も確認されています。このため、2016年12月1日に気象庁の常時観測火山のリストに加えられました。

火山は災害をもたらす危険性を孕む一方で、カルデラ湖のような風光明媚な風情や時には荒々しい自然の迫力で人の心を魅了します。八甲田連峰の魅力もそうした自然の恩恵によるものと思います。(企)

注: 火山噴火の規模が非常に大きく、大量のマグマが短時間のうちに地表に噴出すると、マグマ溜まりの天井は支えを失い崩壊、大噴火が起こる。この結果、地表に大規模な陥没孔、即ちカルデラが現出する。日本においては、約7,300年前に鹿児島県の薩摩半島の南約50kmの大隅海峡付近で起った噴火による鬼界カルデラが最も新しいカルデラと言われている (前野深「カルデラとは何か: 鬼界大噴火を例に」岩波書店『科学』2014年1月号 (Vol.84 No.1) 日本を襲った巨大地震特集号を参照した。添付の「図-1」も同著から引用)。なお、「カルデラ」とは鍋や釜を意味するスペイン語。

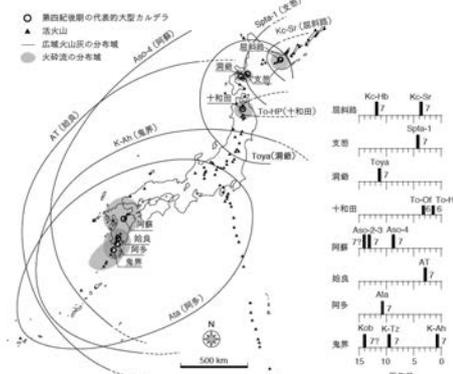


図1-第四紀後期に形成された大型カルデラ (直径>10km) の位置と、代表的な大規模カルデラ噴火による広域火山灰と火砕流の分布活火山の分布も同時に示してある。右側は各火山で発生した大規模カルデラ噴火の年代および広域火山灰の名称。数字は火山爆発指数 (VEI)。